



津奈木

前号より

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)311144
印刷所 旭印刷
電話(水俣)4101番

息をはずませながら
ブロンズ像の横を走り抜けて
力走する選手の皆さんの姿は
実にきれいなものだ。

一言

このごろの親ごろ

この春、子供が小学校に入る。ランドセルと勉強机だけで数万円の金がいるといつて、若いお母さんが歎いていた。ならば、ランドセルは買わなければいいじゃないの。お兄さんのお古があるでしょう。と私が言うと、そのお母さんは、「古いランドセルなんか持たせられませんか」と怒り顔になった。私は驚いて、じゃあ、勉強机の方をやめたら、という言葉を引き出したが、後で聞くと、そのお母さんは借金してランドセルと勉強机を買ったそうである。やっぱり親ごろと云うものですねえ、とその人のお友達の女性の方がいった。

(以上佐藤愛子さんの文中より)
成る程と自分の子供達の入学期の事を振りかえって、丁度終戦直後のいろいろな物に不自由していた時期だったので、複雑な気持ちがある。
古いカバン、古い座机、着物すべて上の子のおさがり、それでも、子供達は生き生きと元気だったのしく通学したものだ。現代は物が多すぎて、物を大切にすることがうすれて来た感じがする。時代の流れとばかり簡単に言い切れない、もっと大事な対策があるのではないかと思われてならない。

熱走 ブロンズマラソン大会開催

去る二月十七日(日)絶好のマラソン日和に恵まれ、小中学生及び一般男女約三百人の参加により、ブロンズマラソン大会が開催され、午前十時、総合グラウンド正門前をスタートし津奈木大橋・西橋・曙橋のブロンズ像を渡り、千拓一周辺を廻る3キロ・5キロのマラソンコースで行われました。

この大会は町民の健康増進と融和を目的として行なわれたもので、当日は町産業祭もあり、人出が多く、盛んな声援につつまれ、選手の皆さんはそれにこたえて力走を続けました。

レース終了後は表彰式が行われ、上位入賞者には、それぞれ賞状とメダルが授与されました。



婦人会と老人クラブの交流懇談会

去る二月十二日農就改善センターにおいて、津奈木校区婦人会長の提唱で、婦人会と老人クラブ連合会共催の初めての懇談会が開かれました。

この席には、千々岩婦人会長以下幹部七人と老人クラブ連合会から斎藤会長以下単位クラブ会長二十人が出席、役場から六車町長、林町民課長、林田福祉係長も出席、ご助言をいただきました。

この懇談会は初めての催しで、特にテーマを設けずに開かれ、出席者に戸惑いもあり、発言も少なかったが、

一、婦人会から見た老人クラブという質問に対しては、西川婦人会副会長から、おいはれの見方は全くしていない、社会の功労者として尊敬しているという意味の答弁があり、

二、老人クラブ、婦人会 に対しお互いに望むことを知り、

三、婦人会、老人クラブ相互のあゆみについて共通する隘路をさぐり、

今後継続してこの懇談会を持つという事で意見の一致をみました。

また、六車町長は、老人の姿は若い人の鏡であり、その鏡に写った近い将来の自分の姿であると話されました。立派な鏡になり、後継者の姿をきれいに写してあげたいものであります。

老人クラブと婦人会の会員は、六十才、七十才代において重なっており、会費のこと、行事参加のことが両団体に加入、所属する事の障害になっているようですが、この事は何れ、打開されることと思ひます。初めての懇談会で、暗中模索といった形で出発しましたが、この日の会で所期の目的を達し得たものとし、今後に期待するものであります。

編集後記

去る一月十三日に行われた甘夏三太郎駅伝大会では、町民皆様の絶大なるご声援本当にありがたうございました。選手の皆さん、大変おつかれさまでございました。詳しい結果については町報二月号に掲載されましたので、割愛させていただきます。

文化協会のクラブ紹介をのせてありますが、皆様、ご遠慮なく加入されます様お願いいたします。

春の足音を聞き、俄かにあたりが活気だっきました。皆様、元気で頑張ってください。



津奈木町文化協会

クラブ紹介

寒蘭同好会

中国では、四君子の一つに挙げられ、我が国でも古来から文人墨客に親しまれて、詩歌や書画に採りあげられた寒蘭は、日本人の心の琴線にピッタリの、佇び、寂びに通ずる清楚で、悠然たる曲線の美しさの葉姿と、特異な花型、色彩の美しさ、そして高貴な香り、それらがあふれ、日本間には蘭園が取り入れられております。



私達も黄金草、辛棒草、姫草の別名のある寒蘭に魅せられて、昭和五十年十月に、同好会を発足させました。寒蘭は一年中眺めて楽しく、芽の出る頃と花の咲く時期は、それこそ日に何回も、蘭姫？に会いに出かけます。現在七十九歳の尾上会長を中心に、十三名の会員は、相互訪問と、各地で開催される展示会に足を運び、見聞を広めて、よりよい作柄の、向上と愛培に努めております。

花無心にして蝶を招き、蝶無心にして花を尋ね、花開く時蝶来り、蝶来る時花開く。(良寛)

陶芸教室

創設後十年を過ぎました。町当局並に教育委員会の御援助、御指

導に感謝申し上げ、此の後も宜しくお願い致します。当時先ず窯を購入して頂き、保育園跡の一室をお貸し下さいました。会員二十四名は、高齢者生涯学習の場として町内各地域から遠近を問わず集り、未経験の陶芸に取り組みました。其の実績は毎年行われている文化祭の展示で御覧の通りでございます。既に十年の経験を積まれた次の方々、田口フクエさん、片桐マヨさん、石田充さん、門崎イノさん

文化祭出品のなかから

読書感想文

「水俣の赤い海」を読んで

津奈木中学校二年 宮島 時子

私はこの本を読んで色々な事を教えられました。まず、一つは、水俣の人達の平和な生活に、水俣病がおそってききましたが、水俣の人達は負けずに病気を背負って短い一生を終えた女の子の気持ち、また、おなかの中で病気がかかって死んでいった子供達のくやしきなどさまざまな事を教えられました。このように、この本は、私達に、もつと水俣病の事を勉強して、そして、小学生から大人まで多くの人がこの本を読んでほしい、思いやりの心で接してくれれば良いとうたえてくれるのだと私は思いました。この本の作者は、小学生や中学生に、水俣病の実態をよく知ってもらい、大人と一緒に学習してほしいのだと思います。私もこの本を読み、知らなかった所がたくさんありました。まだ水俣病の差別がひどいと感じます。この差別を私達の手でなおすよう努力し、また、学習に取り組んでいこうと思います。

ブロンズ像「まつり」

岩野勇三作



過ぎ去った、遠い日。毎日、指折り数えて待ったあの日のこと。たくさんの夜店が並んだ、あの境内。わたあめ、お面、ふうせん屋さん。皆んな、皆んな、不思議に美しかった。小さな心に、たくさんの興奮をつめこんで。「まつり」の像をながめながら、そんなことを考えた。(丁)

庁舎美術館(34)



は身についた技能で、年毎の新会員の御世話を下さってあります。また、本年四月から平成三年度を続けます。此の際新会員の募集を本紙を通して発表しておきます。奮って御入会下さい。今日の健康を明日に津奈木。自作の湯呑でおいしくお茶をのむ楽しさを...皆様元気に暮らしましょう。

私のアイデア料理

町中 斉藤 ノブ子

菜めし

○材料

ご飯茶わん3杯、大根葉20g、人参50g、ちりめんじゃこ40g、コンソメ5g、塩コショウ少々、砂糖少々、醤油少々、サラダオイル大さじ一杯。

○作り方

①大根葉を沸とうしたお湯に塩少々を入れ、サッとゆがき、水で

よくこぎのまま、悩みのままに

年暮れて早や、新しい年を迎え、すでに二ヶ月を過ぎました。お互い会う人ごとに一年一年がびっくりするように早いんですね。の連発。それだけに、自分のいのちも刻々と死が近くなるのは確実でありながら、幸福を求めて右往左往しています。

私も津奈木に御縁がありまして、二十七年目を迎えることになりました。月日の経つ早さに、ただただ驚いております。今日の娑婆は、恵まれて幸福そうには見えても、新年早々には、目の中に入れてもいたくないほどの孫さん殺し、保険金欲しきの妻子殺し、それに一月十七日からの中東湾岸戦争と、身の毛のよだつことが山ほどあり

米料理コンクールにおける作品



とところで、数年前ある先生のお話を聞く機会にめぐまれ、貧富の区別は普通は、財産等の多少で評価しようとするのですが、本当の富とは、心の富でなく、心の富ではなからうか。皆等しく出来る心の富とは、人の心の痛みのわか

「雑感」

深水慶子

子育ての責任と、主人のいない家庭のさみしさに、にわとりを養うことにより心のなごみも出て来ました。親どりがひなを育てる命がけの姿を見ながら、私もすべてのものに對して暖かい心で接する大切さを、学ばせてもらいました。

短歌

宮崎 優選

吾と居るインコ一羽の静けさよ師走のひと針運び居り。ナイロンに包みて配る朝刊は雨の中ゆく少年の顔。白浜 美和子 わが千支の羊の年の新たな庭に一輪白梅咲きぬ。寺本 ツルヲ さざんかの花咲く庭の鮮やかに芯の黄色のひとときわ映ゆる。さざんかの師走の風にあおられて花びら散り敷く庭の一すみ 福田 八重子 甘夏の採集おえし雨の日を呆けしごとく炬燵にねむる。きつきのしきりにつつく日の暮れを音しはせて薪運び来ぬ 野田 浦子 幼孫その母の膝にたわむれてこよなき顔に初春を迎う。

肥後狂句

堀 双岳選

この年の運のぞき見る思いして神のみくしを開き読み。西 滋子 婦人部の歌と踊りの忘年会シルバークラブの一日暮とす。言葉なく表情もなき大達のべへのドラマに心うたる。柳迫 いづも 幼孫が賀状をくれるたどとしく長生きしてねと鉛筆で書き。次笠 衣替え、押しつけて、一笠二句、三月末日まで、教委農口宛